

# 和語と漢語の意識分離の混乱と 実態について

小泉節子

I  
序

子どもたちの日常話すことばを聞いていても、ほとんどが和語である。それは和語が感覚をそのままことばにしたものだからである。子どものことばの成長を考えると始めからことばを学んでいたわけではなく自分の感覚を音にしたり、それに似たことばを使いながら、ことばを獲得していく過程が考えられる。だが、学年が進むに従い子どもたちは何かを考えようとするときに漢語を使おうとする。これは知的に物事を考える手助けになることをどこかで感じているからだろう。このように、和語と漢語を考えていくと、子どもたちには全く違う要因からそれらのことばが入っていくと思われる。にもかかわらず、小学校では単に漢字のふり仮名として、音読み(漢語)訓読み(和語)が教えられている。すべてが記憶力まかせであるために、どれが和語であり、どれが漢語であるかの区別さえ、あやしい。子どもたちが何らかの知恵もって、和語と漢語を区別するとしたら、音感覚による異なる意識の有無によると思われる。子どもたちの和語と漢語の意識分離を見るのがこの調査の目的である。

(1) 問題文

まちがいさがしの問題、★問題は二問あります。

一、次の①～⑥9までの漢字には、みんな二通

りの読み方があります。その二つの読み方を整理して、一方を右に、もうひとつは左に、例のように書いてあります。

(例)  
はなし 話わ  
・  
わ 輪りん  
・  
はな 花か

ところが、①／⑥9までの漢字の読みがな  
のつけ方が、右と左と反対になっているも  
のがあります。それを見つけて、その漢字  
の○の中に○印をつけましょう。

れんしゆう ↓  
〔 ㊦ 〕 家 か  
〔 ㊧ 〕 歌 うた  
〔 ㊨ 〕 左 ひだり

〔工〕  
すな 砂 さ

1

31

ア  
トジ

上下

[illegible]

1

54

5

1

したる

20

(2) 問題文作文のポイント

● 問一 訓読みと音読みを左右に書き、そ

の入れまちがいを指摘する。音からどの程度、和語と漢語の区別がつくか、どうか調べるためのものである。

①、②、③までの漢字に一字一音のものを選び、同じ発音でも和語になったり、漢語になったりするものが、ど

の程度。音から区別がつかないテストを作った。また③①と⑥⑨までは、三つづつ一組にして同じ漢字を入れ、ど

きるかを見るために作成した。

③①～⑥⑨までの熟語で、問一の音読

み訓読みの問題でつけた読み方は、当然全部そう読めるものばかりである。だが、この中で、どれを日本人

が選択して読んでいるかを、使われていない読み方を指摘することにより、どの程度感覚鋭く区別できるかを調べるためにこの問題を作った。

ハ注・①～③⑩までの漢字は、四語(血・場・身・都)を除いては、一、二年生の漢字。③⑪～③⑨までは六語(枯・枝・若・化・造・羊)を除いては三年までの漢字を使用V

・調査校  
二年生 東京・四谷第六小 三十五名  
川崎・稲田小 四十二名  
東京・第一寺島小 三十一名  
(計 一〇八名)

三年生 秦野・広畑小 三十六名  
東京・町田三小 三十九名  
(計 七十五名)

四年生 東京・南第四小 三十七名  
東京・南第四小 三十七名  
(計 七十四名)

五年生 横浜・大正小 三十八名  
東京・町田三小 三十七名  
(計 七十五名)

六年生 東京・四谷第六小 三十六名  
東京・町田三小 三十六名  
(計 七十二名)

・調査実施日

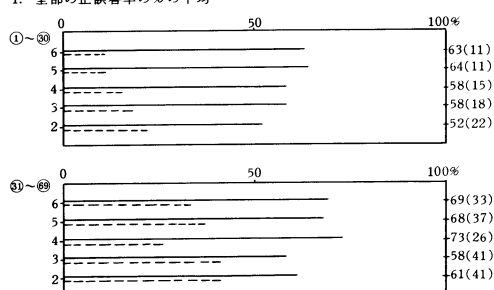
昭和五十二年十二月～昭和五十三年一月

(学年)																													
	6	5	4	3	2		6	5	4	3	2		6	5	4	3	2		6	5	4	3	2		6	5	4	3	2
① いち池ち	6	0	3	8	11	③⑪ おど首ね	21	17	15	11	19	③⑪ ひみか	33	43	20	51	41	③⑪ まんた	63	56	70	59	64	③⑪ まんた	63	56	70	59	64
② ぜんち	20	53	19	12	17	③⑪ 実み	58	55	50	68	34	③⑪ おき	60	49	65	24	42	③⑪ まんた	19	17	20	25	35	③⑪ まんた	19	17	20	25	35
③ いち血ち	65	70	54	61	56	③⑪ 身み	58	43	49	63	39	③⑪ おき	50	51	35	72	69	③⑪ まんた	44	51	39	63	45	③⑪ まんた	44	51	39	63	45
④ こ子し	16	50	22	13	21	③⑪ 馬ば	6	1	7	4	15	③⑪ おき	53	57	47	83	74	③⑪ まんた	21	20	19	27	38	③⑪ まんた	21	20	19	27	38
⑤ と米し	10	0	5	5	16	③⑪ 馬ば	51	37	36	49	44	③⑪ おき	83	88	85	81	73	③⑪ まんた	44	45	24	48	31	③⑪ まんた	44	45	24	48	31
⑥ と紙し	10	4	7	8	15	③⑪ こ戸と	79	83	81	83	81	③⑪ おき	43	51	28	55	46	③⑪ まんた	55	48	66	37	52	③⑪ まんた	55	48	66	37	52
⑦ も市し	21	47	36	51	56	③⑪ 国と	21	6	27	15	25	③⑪ おき	16	23	16	28	28	③⑪ まんた	21	19	19	21	26	③⑪ まんた	21	19	19	21	26
⑧ ち指し	5	3	8	5	14	③⑪ 都と	9	13	24	31	19	③⑪ おき	66	69	72	47	47	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑨ か火ひ	82	92	96	73	80	③⑪ 目め	77	87	66	81	77	③⑪ おき	86	84	86	79	85	③⑪ まんた	52	51	61	69	44	③⑪ まんた	52	51	61	69	44
⑩ も日ひ	42	13	20	21	26	③⑪ が芽め	79	85	84	63	41	③⑪ おき	32	41	22	47	41	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑪ ち皮ひ	5	1	14	11	24	③⑪ かねは	81	85	88	71	77	③⑪ おき	24	28	19	40	38	③⑪ まんた	52	51	61	69	44	③⑪ まんた	52	51	61	69	44
⑫ ん田た	83	88	81	87	86	③⑪ のやま	16	16	18	13	21	③⑪ おき	87	93	84	82	76	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑬ ち他た	13	8	14	56	23	③⑪ たは	32	36	23	16	40	③⑪ おき	40	52	36	64	50	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑭ ち時じ	17	12	26	28	38	③⑪ ののま	82	88	88	79	80	③⑪ おき	20	17	16	12	23	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑮ ち耳じ	8	3	7	8	17	③⑪ ののま	44	53	32	49	50	③⑪ おき	58	59	42	72	70	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑯ ち寺じ	6	3	14	8	17	③⑪ ののま	23	33	12	16	26	③⑪ おき	24	28	26	21	35	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑰ ち世よ	69	57	59	20	32	③⑪ ののま	42	51	34	52	49	③⑪ おき	33	33	38	16	27	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑱ ち夜よ	75	76	78	77	81	③⑪ ののま	40	57	36	69	56	③⑪ おき	15	25	16	36	27	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑲ ち野の	71	77	77	79	85	③⑪ ののま	63	47	62	29	53	③⑪ おき	55	44	26	37	45	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36
⑳ ち根ね	70	85	65	72	38	③⑪ ののま	15	20	16	16	22	③⑪ おき	83	79	85	80	80	③⑪ まんた	47	45	35	49	36	③⑪ まんた	47	45	35	49	36

正 答  
数字は%

(問1)

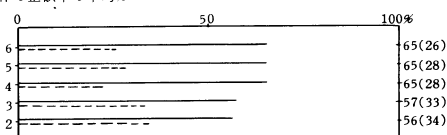
1. 全部の正誤率の%の平均



(問1)

表2

全体の正誤率の平均%

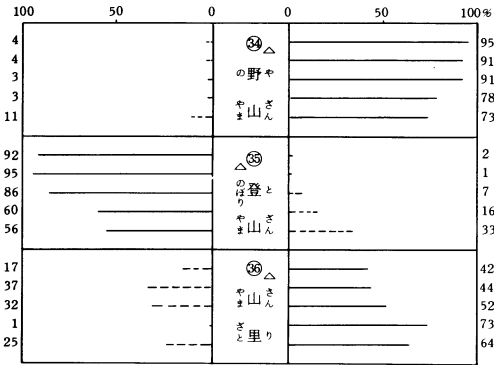


(問2)

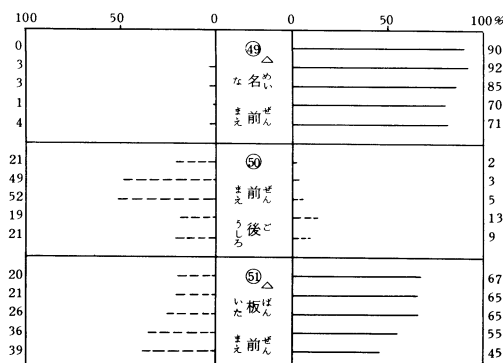
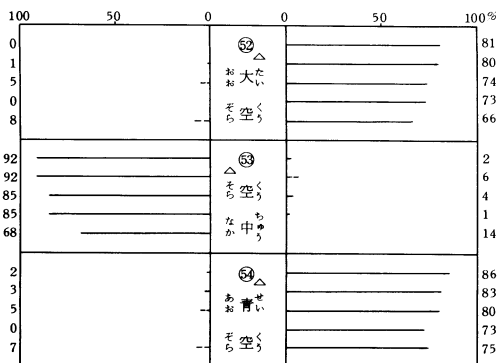
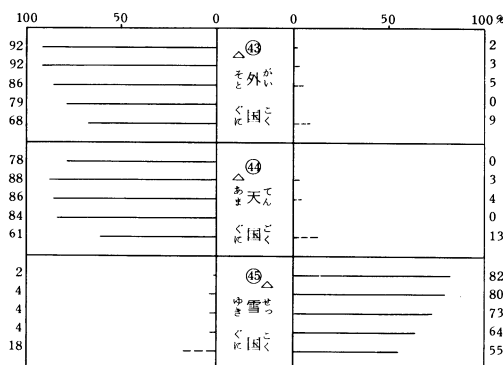
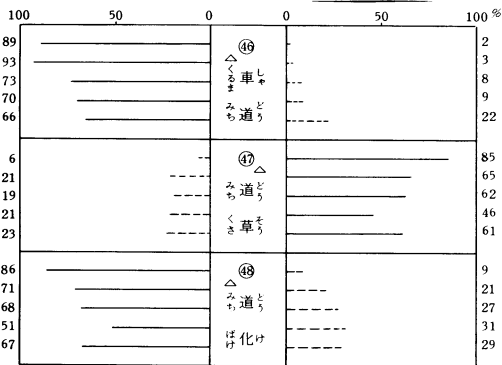
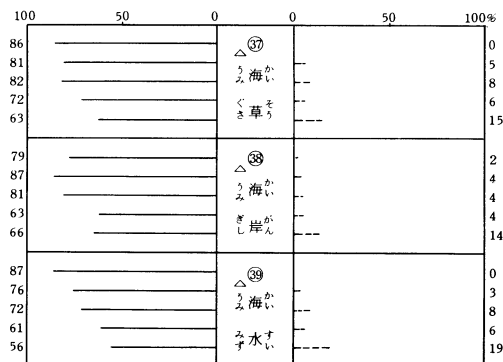
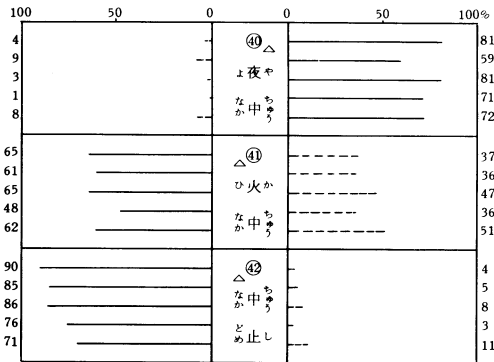
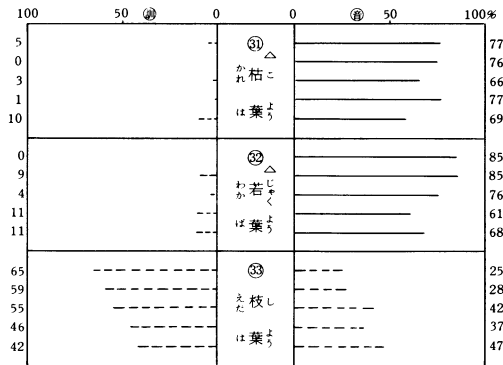
表 4

—— 正答(まちがいに△印をつけたもの)

----- 誤答(まちがいに△印をつけたもの)



上から6・5・4・3・2年生

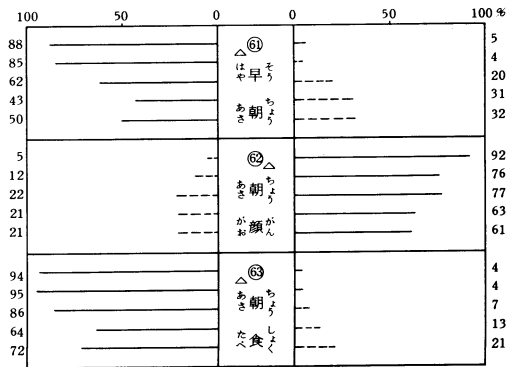
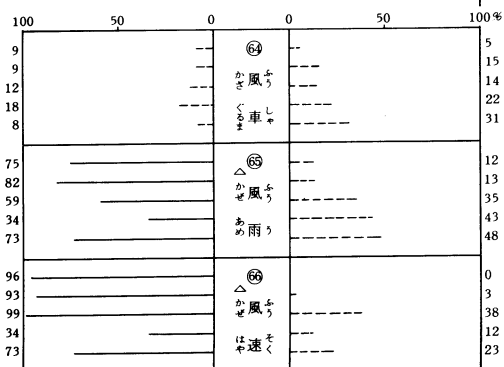
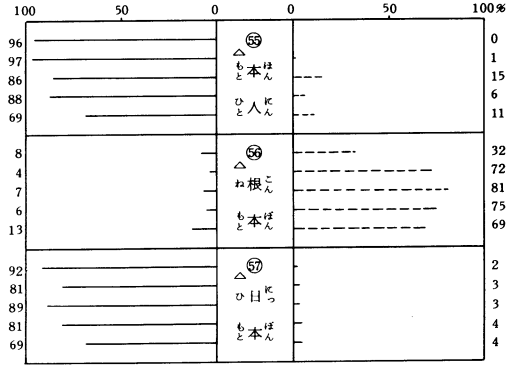
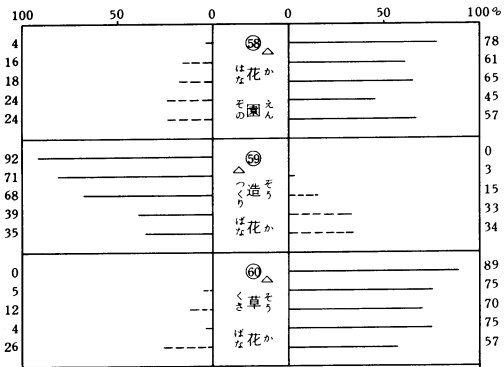


がする。

の結果は表1に示す通りである。全部の平均を各学年ごとに出すと表2のようになり正答率は、四・五・六年生はみな65%と半数をやゝ上回る程度で、ほとんど変わらない。二・三年生は劣は、やゝ落ちるが、それでも大きな差はない。つまり、二・三年生時代に身につけた漢字に対する意識が、四年生で定着し、それ以上何の進歩も見られないということだろう。また誤答率を見ると、四年生が最少の22%を示しているが、あとは六年生から二年生へとその劣が増している。しかし、これとても、大きな変化ではない。低学年で誤答が増す事は予想されていたが、これ程、微かな差とは考えなかった。和語と漢語に対する感覚ということの方がむしろ明らかになった気がする。

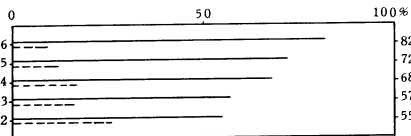
## II 結果とその考察

### (1) 問一について

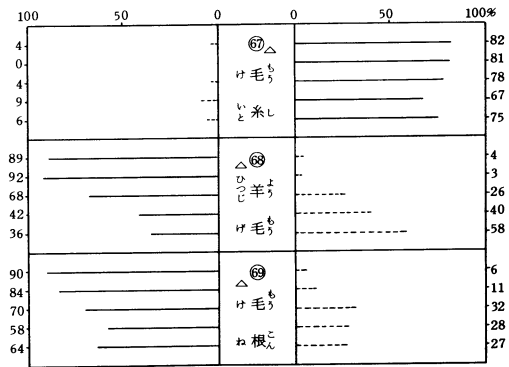
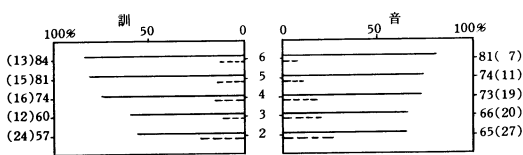


(2) 表 5

全体の総% 平均正誤表



音・訓別 総% 平均正誤表 表 6



問一についてはA(①)とB(③)までの漢字の出題が少し異なる。Aは一字一音のものをとり上げて、同じ音でも和語漢語の区別がつくかどうかを見るために出したものである。Bは、同じ漢字で三つの熟語を作り、三つ並べておくことにより、音感覚で和語と漢語の別が出来るかを調べるためのものである。私の予想では、当然一字一音の区別が難しいと考えていたが、結果は表3のようである。両方とも正答率に大差はないが、圧倒的に、Bの熟語が誤答率が高い。熟語を三つ並べてあるので、それぞれの音の入れ違いですぐ見分けられると考えたが、子どもたちには、Aにおける音の区別の方が、やさしかったようである。これは、Aの出題漢字が、一・二年生習得の漢字であり、音感覚の判断というよりは、この時期行なわれる初期の漢字指導の徹底ぶり、半ば記憶されていると考えて良いだろう。しかしBの語になると単独漢字でなく熟語であることも災いし、単に音感覚で、区別していたように思う。知識的なもので区別したのかとも考えてはみたが、それにしては、高学年の伸びがあまりに少ない。やはり音感覚を基準にしたと考える方が妥当のようである。

ただひとつ付け加えておきたいのは、音感覚による判断のあいまいさである。漢語の最も代表的な音『—ン』の付く語の指摘率をあげてみると次のようになる。

学年	6	5	4	3	2
千 <sup>せん</sup>	20	53	19	12	17
田 <sup>でん</sup>	83	88	81	87	86
根 <sup>こん</sup>	70	85	65	72	38
身 <sup>しん</sup>	53	43	49	63	39
野 <sup>や</sup> 山 <sup>さん</sup>	82	88	88	79	80
名 <sup>な</sup> 前 <sup>ぜん</sup>	85	84	86	79	85
日 <sup>にっ</sup> 本 <sup>ぽん</sup>	33	33	38	16	27
毛 <sup>もう</sup> 根 <sup>こん</sup>	52	51	61	69	44

この八語はこの結果を見るために○印をつけるように考え作ったものだが、田・山・前を除いてはあとが低く、しかも%がまちまちで、何か発達が見られるというわけでもない。これから考えても、和語と漢語に関して、音感覚で判断しているとは一応考えられはするものの、その音に確かに反応しているという確証はなく、漢語と和語そのものの意識は大変低く、混乱状態であるといえる。ただ、音感覚訓練により、それが解決されるか否かは疑問として残るが、問一で言える限りに於ては、四年生が、聴覚の完成される時期であり、ことばに対する意識の感覚的な芽ばえも、この学年に潜んでいると考えられそうである。

(2) 問二について

問二の問題は、問一の①～③までの熟語について、そのふりがなの使い方のあやまりを指摘する問題である。その結果は表4の通りで、三語一組にして、音訓別に%を記入したが、この三語の中で何か特徴らしいもの考えたが、何も見出だせなかった。そこで全部の%を合計し、正・誤答

語	学年	6	5	4	3	2
1. 枯 <sup>こ</sup> 葉 <sup>えつ</sup>	問一	81	85	88	71	77
2. 野 <sup>の</sup> 山 <sup>さん</sup>	問二	77	76	66	77	69
3. 海 <sup>かい</sup> 水 <sup>すい</sup>	問二	95	91	91	78	78
4. 中 <sup>ちゅう</sup> 止 <sup>し</sup>	問二	87	76	72	61	56
5. 雪 <sup>せつ</sup> 国 <sup>こく</sup>	問二	60	49	65	24	42
6. 道 <sup>だう</sup> 化 <sup>か</sup>	問二	90	85	86	76	71
	問二	83	88	85	81	73
	問二	82	80	73	64	55
	問二	65	69	72	47	47
	問二	86	71	68	51	67

語	問一	問二
7. 名 <sup>な</sup> 前 <sup>ぜん</sup>	85	84
8. 大 <sup>だい</sup> 空 <sup>くう</sup>	90	92
9. 日 <sup>にっ</sup> 本 <sup>ぽん</sup>	87	83
10. 草 <sup>そう</sup> 花 <sup>か</sup>	81	80
11. 早 <sup>そう</sup> 朝 <sup>ちよう</sup>	83	79
12. 風 <sup>ふう</sup> 速 <sup>そく</sup>	88	85
13. 毛 <sup>もう</sup> 根 <sup>こん</sup>	52	51